

# 旭川龍谷高等学校 令和5年度 授業シラバス

教科名	科目名	単位数	学年	必/選	コース/フィールド
国語	論理国語	2	2	必	特進コース
科目の目標	<p>進学や実社会に向けて必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。また言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書	「精選論理国語」、数研出版	副教材等	頻出漢字マスター3000、尚文出版		

## 1. 学習の到達目標

大学進学や実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにし、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。また進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

## 2. 学習計画及び評価の観点

※評価の観点：X(知識・技能)、Y(思考・判断・表現)、Z(主体的に学習に取り組む態度)

学習内容	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
				X	Y	Z
一章 学ぶということ 学問の発見	4	4	語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	○	○	○
具体と抽象 「内的成長」社会へ	4	5	必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	○	○	○
具体と抽象 「具体」から「抽象」へ	4	6	言葉で説明できるようになるため、言葉の働きについて理解する。文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○
普遍的な言葉 国境を越える言葉	4		題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○
普遍的な言葉【探究の扉】 ニュースとコミュニケーション	4	7	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から解釈できている。	○	○	○
近代と現代の視点 未来世代への責任	4	8	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。また人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。	○	○	○

学習内容	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
				X	Y	Z
近代と現代の視点 科学・技術の歴史の中での社会	4	9	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。文章の構成や論理の展開、表現の仕方について書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。	○	○	○
情報と社会 弱いつながら	4		文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。	○	○	○
情報と社会 消費されるスポーツ	4	10	推論の仕方について理解を深めている。内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。	○	○	○
思考の枠組み 偶然とは何か	4		言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○
思考の枠組み 「である」ことと「する」こと	4	11	文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○
考えの表出 胆力について	4		文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。	○	○	○
考えの表出 「手」の言葉	4	12	実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。	○	○	○
考えの表出 日本語は非論理的か	4	1	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	○	○	○
考えの表出 「安楽」への全体主義	4	2	「個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。	○	○	○
考えの表出 「いき」の美学	4	3	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	○	○	○